

ὁ ἀμνός τοῦ θεοῦ

ホ アムノス トー セオー

知っておきたいキリスト教のことば (43)

神の小羊 かみのこひつじ

「世の罪を除く神の小羊よ、憐れみをお与えください」

日本聖公会の礼拝では、聖餐式の中で陪餐を受ける前に、このような言葉を唱えます。神の小羊というのは、イエス様の呼称の一つです。

この「神の小羊」という表現が出てくるのは、新約聖書ではヨハネによる福音書の二箇所だけです。自分の元へと来るイエス様を見て、洗礼者ヨハネが「見よ、神の小羊だ」と言ったのです。

ユダヤ教では、小羊は神さまにささげるいけにえとして出てきます。出エジプトの際の最後の災いのときには、イスラエルの人々は家の門に小羊の血を塗って、神さまへの誓いのしるしとしました。また出エジプト記 12 章では、主の過越の規定の中で、いけにえの小羊を用意するようにと定められています。

さらにイザヤ書 53 章を見てみると、苦難の僕の描写を「屠り場に引かれる小羊のように 毛を切る者の前に物を言わない羊のように」と書きます。このように、旧約聖書の中では、「小羊」はいけにえのささげ物であるのです。

それでは、イエス様が「神の小羊」であるということは、どういうことでしょうか。イエス様は十字架につけられます。それは、わたしたち人類の罪を贖うためなのです。

イエス様の死を通して、またいけにえである「小羊」の血によって、神さまと人間との関係を正しくする、それがイエス様が来られた目的です。

イエス様がわたしたちの罪を贖ういけにえとして、ただ一度ささげられたことを心に留めながら、感謝していきたいと思います。

次回は「神の似姿」です。お楽しみに。



「キリストの旗を抱える神の小羊」

聖イグナチウス教会のステンドグラス

(米国マサチューセッツ州)

その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」

(ヨハネによる福音書 1 章 29 節)

